

校長室の窓からNo. 10 (H28.11.7)

シリーズ 「ふるさと＝夢を育む十勝の大地④」 ～ふるさと「帯広・十勝」の特色(3)～



帯広の観光スポットとしては、第一に、いわゆる大正・昭和の時代のレガシー（遺産）として旧国鉄廃止路線の「愛国駅」と「幸福駅」が有名です。また、「愛国駅」と「幸福駅」の中間地点にある「大正駅」も大正・昭和の時代の郷愁（ノスタルジア（英訳）、ノスタルジー（仏訳））や懐古を感じさせ、少しずつ認知されレガシーとしても見直されてきています。「大正駅」は、列車やグッズ販売はなく、人によっては寂しい場所とされていますが、当時は、愛国駅と幸福駅の中間地点にあり「たいそう幸福」と縁起のよい場所とされてきました。また、駅舎は、現在の公衆トイレとして復元され、昔の面影が漂い貴重だとされています。付近には、二輪車が泊まれる「カニの家」、二輪車の展示と販売をしている「とからち大正二輪館」（牧野燃料店）がありツーリング仲間にも人気があります。

さて、前述の2つの駅「愛国駅」「幸福駅」は、1973年3月にNHK「新日本紀行」で紹介されました。さらに、1974年に歌手の芹洋子（せりようこ）さんによる「愛の国から幸福へ」の曲が大ヒットし、「愛国から幸福ゆき」の切符が爆発的に売れました。また、2008年7月に「恋人の聖地」に選定されるなど、全国から「愛の国から幸福へ」のブームとして、脚光を浴び続けてきました。その中で、「幸福駅」は2013年11月16日にリニューアルのお披露目をしました。私も当時は幸福駅が前任校の校区（帯広市立帯広第七中学校～現任校の大正小学校の隣の中学校～）に位置していましたので、3年前の11月16日のリニューアルイベント（上写真）に一般参加者として参加してまいりました。そのリニューアルイベントには、中川衆議院議員さん、米沢市長さんをはじめ、市議会議員の方々や市役所職員の方々、町内会役員の方々、前述の歌手の芹洋子さん、帯広出身のオカリナ奏者の本谷美加子さん、写真家の山岸伸さん、地元住民の方々、全道・全国各地からかけつけてくれた幸福駅ファン、マスコミ関係者など、数多くの方々が集まりました。私もこの場に居合わせたことを本当に幸運に思いました。





2013年にリニューアルした理由は、脚光を浴びるきっかけとなったNHK「新日本紀行」に紹介された1973年から40年が経過したことと、駅舎が建設から57年が経過し老朽化したことによります。そこで、訪れる人の安全の確保と更なる魅力アップを図るため、「幸福駅再生プロジェクト」として、2013年9月2日から、改修工事が行われました。「幸福駅再生プロジェクト」では、「古くて新しい」をコンセプトに、幸福駅の観光拠点化を進めています。

駅舎は、建物としての基盤を整備し、耐震性を確保するために、一度取り壊して今と同じ場所に建て替えられました。駅舎に使われていた木材をできるだけ再利用し、外観は今までの趣を残しています。幸福駅は駐車場が広く、一帯が公園「幸福ふれあい公園」となっています。公園内にあるディーゼルカーの内部も、展示・休憩スペースとして改修されました。また、駅舎西側の「幸福ふれあい公園」では、「幸せのひろば」を整備して、屋内の青空チャペルで結婚式が挙げられるようにしています。その他にも、ウェディング用のドレスハウスや小型噴水「愛の泉」などの親水設備が新設されました。また、シンボルツリーを植えるなど、自然の美しさを損なわないように幸福駅全体をイメージアップしました。現在もなお、愛国駅や幸福駅には、若者からお年寄りまで、この地を訪れていますし、全道・全国各地はもとより、台湾等の諸外国からお越しいただいた観光客の皆様も沢山いらっしゃいます。この地名にあやかって、人生の記念に結婚式を挙げるカップルも多くいます。中には、1年後、5年後、10年後、ご高齢になってから等、若い頃に残してきた各自の思い出を懐かしみ訪れる人も多いためです。この回帰は、今でも続いています。結婚した夫婦や若いカップルが駅舎の壁に貼ったおびただしい数の恋文（「二人でまた来ようね。・・・」「二人はいつまでも幸福でいますように。・・・」など沢山の思いが書かれている色紙や手紙）や名刺、身に付けていた装飾品、服、ベルト、タオル、……。リニューアルに合わせて、2013年9月までについては、すべてが貴重な資料として大事に保存用の箱に収納されていますが、装いをあたらしめて、手紙や名刺なども今まで通り貼れるようになっています。

幸福駅は、十勝観光や道内観光の休憩地点になっていました。その中で、台湾からの観光客の方々から、「休憩スポット以上に幸福駅そのものが縁起のよい地名」「台湾にも愛や幸せに因んだ駅として合興駅(別名：愛情駅)がある」と認知されるようになりました。そして、ついに、2014年頃から、合興(ごうこう)駅のある台湾北部の新竹(しんちく)県と帯広市とで交流が始まり、本年の10月22日の午前11時(日本時間正午)に、合興駅にて幸福駅との友好駅締結式が行われました。それは、関係者の方々が約3年間の歳月をかけて育んできた「愛」と「幸せ」の協定が結ばれたこととなります。その協定は、未来を明るくするたいへん良い成果ですし、心温まる友好の証・架け橋になったと思います。(次号につづく)

